

Q. 64歳の男性です。20歳代から花粉症になり、大変な思いをしていましたが50歳を過ぎた頃から症状がなくなりました。花粉症の場合、自然寛解があるとのことですが、条件はなんのでしょうか。(年齢、性別、体質、生活習慣、居住環境など) また、良くなった後に再発することもあるのでしょうか。

A. 自然寛解に関しては、年齢を重ねることにより生じやすくなるとは考えられます。しかし実際には、シニア世代になってから、はじめて花粉症症状を発症される方も目にします。自然免疫と獲得免疫のバランスでなりつつアレルギー疾患では、一つの要因だけで寛解機序すべてを説明することは難しいと思います。これがアレルギーの難しさでもあり、逆に面白さなのかもしれません。

Q. 肥満細胞から原因物質がでるとのことでしたが、これを減らすことはできますか？

A. アレルギー性鼻炎の機序として肥満細胞を学んでいただくことができよかったですと思います。こうしたアレルギーの機序を修復する治療選択肢として、免疫療法が一つの選択肢となります。

Q. シダキュアについて、教えてください。

A. 講演の中でお話をしました免疫療法のうち、舌下投与を行う製剤の製品名となります。治療効果に関しては、講演の中でお示しました通り、3年以上の継続治療を行うことで、休薬後も効果が持続することが期待できる治療法です。個別の薬剤に関する詳細のお答えは、致しかねますことをご留意ください。

Q. アレルギーを抑える薬を飲んでいますが、続けた方がよいですか。目薬をつけても痛みが強い場合、回数を多くしてはいけないのでしょうか。

A. ご自身が、どのアレルギーに対して反応があるかを確認いただき、「対応をしたほうがよい時期」と「しなくてもよい時期」の区別を自覚いただくことが重要と思います。一年中対応が必要な患者さんに関しても、花粉症シーズンとシーズン以外では治療強度(薬の内容)を症状にあわせて調整することで、アレルギー性鼻炎と共存した生活が送れるようになると思います。また、目薬の使用回数を増やす件に関しては、保険で定められた使用回数以上の使用をすることは推奨することはできません。回数を増やすこと以外に、適正な薬剤に変更することをお勧めしていただくほうが良いと思います。

Q. 花粉症で目が乾燥して、かゆくなる場合があります。どのように対応すればよいのでしょうか。

A. 目のかゆみ症状が、目が乾燥しているからなのか、目へのアレルギー反応が出ているのかで対応は異なると考えます。花粉症シーズンに目の掻痒感が強くでる場合には、花粉症対策眼鏡を装用し、点眼薬も併用いただき効果を確認いただくのがよいと思います。そのうえで目の掻痒感がなくなる場合は、花粉症以外の原因で掻痒感が出ている可能性もありますので、一度眼科での診察をうけていただくことが望ましいと思います。

Q. 就寝時にくしゃみをする人が多いのですが、マスクをして寝てもよいのでしょうか。

A. 就寝時にマスクを使用されることは問題ございません。加えて、就寝時に特にアレルギー反応が強くなる場合は、寝具に関連する通年性アレルギー性鼻炎の症状が出ている可能性があります。就寝環境の調整も併せてご検討いただくのがよいと思います。

Q. 東和会で耳鼻科を初診で受診する場合、待ち時間はどれくらいですか。外来は平日なら午前午後問わず受診可能でしょうか。

A. 現在、耳鼻いんこう科の外来では予約制をとっておらず、受付をされた順番に診察をさせていただく方針とし、急性炎症などにも柔軟に対応できるような体制で診療をおこなっております。それゆえに、日によっては多くの患者さんが同じ時間帯に来院されることもあり、お待たせする時間が長くなる可能性があります。診察日や診察時間に関しては、最新情報を病院ホームページ上に適宜更新しておりますので、そちらをご参照ください。